分析対象とする韻律情報について検討しようと文献調査を行ったところ、納得の要素の１つとしている「理解」と韻律情報との関連を調べた文献を見つけることができたため、報告する。

戸上ら(2007)は研究協力者が簡易防音室内で問題を解いているときの音声について、句末のイントネーションに関する音響的特徴と学習者の理解度との関係について分析している。方法は、収録した音声を第3者が「驚き」「疑問」「困惑」「理解」を表しているか主観評価を行う。そして、句末のイントネーションの様子がどのように変化しているのか音響的な分析を行っている。分析に用いたパラメータは、句末のF0の傾きである。戸上ら(2007)は分析の結果、「理解」を表す音声は、句末がほぼ一貫して平坦であると示唆している。

以上の結果より、私は納得の要素のうち「受容」と韻律情報との関連を調べたうえで、他の要素を表す韻律情報と組み合わせ、韻律情報から納得度を測ることを研究の目的としたいと考えた。

参考文献

戸上雅夫,飯田仁「学習者の理解度把握へ向けたeラーニング学習中の音声の音響的特徴分析」『第69回全国大会講演論文集』2007.1(情報処理学会,2007)pp.575-576.